

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成22年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4671500165号
法人名	医療法人 仁梅会
事業所名	グループホーム虹の杜
所在地	〒899-3303 鹿児島県日置市吹上町湯之浦760-1 (電話) 099-245-1460
自己評価作成日	平成22年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事(花見、温泉祭り、敬老会、忘年会、家族会(4月、9月)文化祭、遠足、毎月の茶話会)等を計画し、地域との交流としては自治会に開園当初より加入し、自治会奉仕作業、地域の行事(総会、おでばいなど)、郷土芸能、温泉祭り(灯籠作りや踊りの披露)に参加したり、見物を行い、外出の機会を設けている。食事の材料は地元の道の駅で、野菜、果物を購入し、魚は地域の魚屋の利用と4.5キロ離れた、漁協に利用者とともに買い出しを行っている。新鮮な食材を調理している。季節の行事の菓子作りや、手作りおやつ(提供に職員も工夫、努力している。(いこ餅、かからん団子、ふくれ菓子、あくまき、から芋餅、よもぎ餅等)を利用者とともに作り、隣人にも配っている。漬物(高菜、即席漬け、梅干等)を利用者とともに作っている。地域との交流を大切にしている。本人の誕生日に、皆でお祝いし、ささやかなプレゼントを渡している。二週間に一回の往診であるが、2ユニットある為、毎週決められた曜日に理事長がこられる。医師との連絡が直接できる。理事長からの声かけが頻回に入居者にある。退所した方の家族や、退職した職員の来所が頻回であり、季節の野菜などの差し入れがあり、お茶飲みも一緒にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは豊かな自然に囲まれて広々とした敷地に建てられている。法人は長年同町内で地域医療に携わっており、ホームの敷地内には高齢者住宅も併設され、地域の高齢者福祉も担っている。地域との垣根のない交流を理念の中に謳っており、自治会の奉仕活動や総会を通してホームの催し物の案内、参加の呼びかけなどを行っている。毎月行われている茶話会や地域行事への参加、地元商店街利用など地域の一員として積極的な交流に努めている。また、健康管理、医療面でも充実しており、法人の医師の往診や協力病院との連携など、容態の急変時などに即座に対応でき、利用者及び家族の安心につながっている。職員は常に利用者を人生の先輩として敬い、感謝のことばや笑顔とやさしい気持ちで利用者に接することを念頭に日々のケアに邁進している。職員のことば使いが丁寧でやさしく、利用者も表情が穏やかである。入居時に発語もなかった利用者が、職員のかさしい声かけと常にそばに寄り添い手をにぎり関わることで表情があらわれてきたケースもある。理念の通り「人は人として幸せを感じるホーム」を実践している。開設当初からの職員も多く、チームワークも良く、今後は更に地域に密着したグループホーム運営が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をホール玄関出入り口、職員トイレに貼ってある。人は人として幸せを感じるホーム、家族として全てに接し行動、生活リズムは個人のリズム、すべてにおいて前向きに考え行動、地域との垣根のない交流。職員会議など機会あるごとに確認し、支援に心がけている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。玄関ホールに掲示してパンフレット・重要事項説明書にも明記している。職員は朝の申し送りや職員会議などで理念を確認し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との垣根のない交流を理念にうたっており、地域の行事（自治会総会、自治会主催温泉祭り、奉仕作業、地域共同芸能伊作太鼓踊り等）に参加している。買い物も（タイヘイ、Aコープ、道の駅物産館、漁協）に行っている。茶話会、敬老会、忘年会などに地域の方の参加がある。	自治会に加入し管理者が総会などに参加して、ホームでの催し物の案内や茶話会などの参加呼びかけなどを行い、積極的に地域との交流に努めている。茶話会は毎月第3金曜日に行われており、地域の方々や民生委員の参加があり、交流の機会になっている。また、夏休みを利用した中学生の訪問や幼稚園の餅つき大会、お遊戯会への招待もあり、子ども達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	自治会より花壇の提供があり、四季折々の花の植えかえや草取りをしている。茶話会参加を促して、参加者の状態に変化を感じ取り、その事を運営推進会議などで話題にしている。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員会議で必ず報告し、改善にむけて努力している。議題を参加者にも聞き、意見の交換に努めている。	自治会長、家族、利用者、行政などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。緊急時の対応や防災訓練の反省点、改善点の話し合いなどホームの安全対策や利用者の意見・要望に対するサービス向上に向けた話し合いがなされている。外部評価の結果報告と改善課題についての話し合いも行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新の申請、生保への相談を管理者が行っている。市や居宅介護支援事業所と入所受け入れの相談などを担当職員と情報交換している。運営推進会議に市職員が参加している。集団検診（レントゲン、インフルエンザ）の名簿を作成したりし、連絡をとあっている。	生活保護受給者もおり、日頃から連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でのマニュアルを作成しており、勉強会の実施もある。利用者の不安、ストレスの把握に努め、日常生活において本人への声かけ、プライドを重視している。居室の鍵はかけず、居室への出入は自由で、ゆっくり過せるよう、いつでも、テレビ視聴、談話できるよう環境づくりに努めている（ソファなど）。日々のケアの中で意見交換に努めている。玄関の鍵は21時～6時までのみ施錠している。ベッド柵は身体的にベッド柵がないと起きられない方のみ、1ヶ所使用している。物音で訪室し見守っている。帰宅願望、徘徊の方には、訴えを拝聴し気分転換を図るよう心がけている。	日中は施錠などせずに安全で自由な暮らしを支援している。玄関にセンサーがついており、外出の察知ができる。外出傾向の利用者には、職員がさりげなく見守っている。	

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はない。入浴時に身体観察を行っている。不潔行為や繰り返しの訴え時一人ひとりの状態、理解度に合わせた声かけ、見守りを心がけている。他の人のいる前でのことばかけの配慮、自宅から帰宅された時など、利用者の変化観察を行っている。利用者のサインを見過ごすことのないよう配慮している。マニュアル作成し、職員会議でも話題にしている。言葉の虐待も見過ごさないように注意し、利用者に対する態度や言葉は心をもって受け止め返していくことを心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会の実施は、研修報告のみの実施。現段階では、該当者なし。（対応の必要と思われる利用者は現段階ではない）民生委員との情報交換をしている。マニュアルあり。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、管理者が説明している。家族本人の不安の軽減に努めている。契約時には必ず説明し、担当者会議、面会時に話したり毎月の便りにも記入したりしている。家族会時に、改定などの説明は理事長より行い、その後文書で連絡している。</p>		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿記入の所に意見箱を設置してある。面会時、担当者会議、家族会、運営推進会議などで意見を求めたり、何でもいえるような雰囲気作りに留意している。家族会での提案、意見はその場で話し合い、話題になった事は、後日文書で連絡している。	面会時に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。職員紹介やネームプレートについての家族からの意見・要望などがあり、職員全員で検討してホームの運営に反映させている。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、フロア会議で意見、提案を聞く機会を設けている。その都度意見を言ったり、日ごろからコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするよう心がけている。不満は直接、管理者へ発言されている。開設者は、管理者、職員から直接意見を聞いている。建設的な意見を言うよう計らっている。	職員間で共有すべき内容は毎朝合同の申し送りや申し送り簿、個別記録の活用で情報の共有が図られている。新しい利用者については事前に情報を職員に伝えている。また、代表者は日頃より職員とのコミュニケーションを図り、意見・要望を表しやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長も最低週1回は現場にきている。勤務表を毎月手渡している。直接理事長が相談に応じている。年2,3回食事会を実施し、気分転換が図れる機会を作っている。常時、代表者（理事長）と管理者は連絡をとりあっている。研修会への自発参加に応じている。希望休を聞いている。勤務に支障の無い限り、有給を与えている。資格手当、職能給の実施。職員からの要望は可能な限り取り入れるよう行っているが、甘える事は不可としている。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員会議の後に勉強会の実施。 (テーマを決めて取り組んでいる) 公文書で来た研修は情報提供し、出勤扱いで参加している。公文書以外での研修は情報提供し、本人の希望のある場合は対応している。研修報告は職員会議での発表や、研修報告書を職員全員が閲覧できるようにしている。研修内容を回覧している。各研修などには積極的に参加させるようにしている。スキルアップの為、必要と考えた研修には参加させている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県、薩摩半島地区、日置市のグループホーム協議会に入り、研修があるたびに出席させている。研修報告は職員会議で行っている。他の介護福祉施設からの見学がある。懇親会への参加をしている。同業者とスタッフの交流を行い、異なった視点での介護力アップに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みは家族が殆どである。本人に入居前に必ず、施設見学をしてもらっている。時間にゆとりのある時は入居者と一緒にお茶を飲んでいただいている。本人の馴染みの顔もあり、地域の話で、不安が軽減している様に思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居までの期間が短い方が多い。家族はここでの生活ができるだけで良いと考えている人が多い。家族が県外在住で、同居できない。又、本人も同居を望まない。自宅で一人で生活する事に家族が心配であるケースが多く、誠意をもって対応に努めている。利用にいたるまでの苦情はなし。担当ケアマネージャーからの勧めがあつての申し込みも多い。(担当ケアマネから家族への説明がある)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での生活の維持が出来なくなった。病院からの退院、老健での退所を迫られての申込者が多い。本人や、ご家族の思い、状況確認に努め、担当ケアマネージャー、担当理学療法士との情報交換を行い、グループホーム利用対象者かどうか面会し対応。まず、認知症の診断があるか確認している。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬物作り、あくまき作り、毎日の調理など、味加減、調理方法を聞きながら、一緒にしている。踊り、掃除、お茶、食事、散歩、外出、畑仕事、洗濯物のしわ伸ばし、草取り等その人に応じての支援をしている。人生の先輩として、尊敬の念で支援できるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室にて、お茶、手作りのオヤツ等、提供している。差し入れも自由であるが食べ物の確認はしている。面会時には必ず、本人の心身状態を報告している。家族会、温泉祭り、敬老会・忘年会等の参加の声掛けし、一緒に過ごす時間がもてるよう配慮している。外出、外泊、病院受診、理美容、墓参りなどの家族支援がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の頻度は個人差があるが、面会、外出、外泊は自由である。面会も居室、ホールなど、好む場所で行える。面会時に茶話会や誕生会等への参加を呼びかけもしている。スーパーなど外出先で利用者の知人に出会った時などは、なるべく語り合えるよう配慮している。	利用者のなじみの場所へ出かけたり電話をかけたなりなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人知人が訪ねやすいようにホームの雰囲気作りに配慮している。	

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者、個々の性格、趣味、特技等を把握し、交流がもてるよう職員が声かけを行い、活動できるよう支援している。座席の配置を話し合い、トラブルのないよう対処している。余暇活動を通し、働きかけている。毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話ができるよう配慮したり、役割活動など（テーブル拭き、茶碗洗い）を通して利用者同士の関係が円滑になるよう職員が入り、働きかけている。各フロアとの交流の場をもうけ、余暇活動などで共同作業を行っている。気の合った物同士が、居室などで会話できるよう見守っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院者に対してはお見舞いに行く。他施設利用者には面会に行っている。近況を聞いたり、訪問したりしている。家族と会ったときは、挨拶をし現状を聞いている。退所した家族の来所があり、お茶を提供しながら情報交換している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活リズムは個人のリズムの理念を、念頭におき、日々の会話の中で、思いや希望、言葉や表情などで推測したりしている。できるだけ、生活しやすいよう、利用者との会話を大事にしている。本人にとって、どこで誰とどのように暮らす事が最も良いか家族を交えて検討を行っているが、家族の思いに従っている気がする。	日常の会話の中から思いや意向を把握し、本人本位に検討している。困難な場合は表情、言動などから把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅からの入所の場合は、担当ケアマネージャー、病院や施設から来られる人は、サマリーや情報提供書で把握し、その他家族よりの収集がある。(家族や、前施設、病院で把握しておらず、入居後にわかる事もおおい) 入居後本人自身の語りや、面会者より今までの生活の情報を得ることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分摂取量、表情、動作、睡眠時間、会話などの様子を観察し、声かけや見守りを行っている。気付いた事、変化した事は、ケース記録に記入し、把握ができるようにしている。毎日、日勤者⇄夜勤者の申し送りをしている。できることと、してきたことに注目し、スタッフ間で意見交換を行っている事を介護計画に繁栄できるように努めている。ケアプラン、医師の診断を把握し、指示にそって行っている。8時30分、19時30分に血圧、脈拍、体温、顔色、活気で早期発見に努めている。排泄チェック、行動記録を残し、異常があればすぐ対処できるよう努めている。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時、三ヶ月のみでなく、家族の面会時に心身の状況を話し、要望を聞き、提案をいただき、状態変化に合わせて、フロア会議等で意見交換しプランを作成している。かかりつけ医への相談は状態変更時に行っている。常時、スタッフ間で情報交換を行い介護計画に反映している。</p>	<p>個々の得意な事や出来ることは自分でしてもらいように、利用者個々の能力に応じたサービス内容で、現状に即した個別の介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>夜勤、日勤者が個別記録し、申し送りや職員がいつでも読める状態で、読んだら押印している。記録は、夜勤、日勤ともにわかりやすいように色分けして記入している。個別にケース記録、排泄チェック表をファイルに綴じてある。職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載し、職員間の情報を共有している。申し送りと、連絡帳の活用もある。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>理事長がクリニック経営者であり、医療との連携は密である。本人、家族の状況に応じて通院、往診（歯科含む）などの支援は、対応している。利用者に応じた外出支援をしている。ホームには、自由に宿泊できる。また家族の要望に応じて、訪問、理美容を利用できる。</p>	/	

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練、救急法指導、住職の講話。各地域の民生委員さんの面会あり。ボランティアの実施もある。防災訓練で、通報、避難、誘導の指導、説明を受けている。地域の花壇の花植えや草取りを行っている。居宅支援事業所の訪問がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望にそったかかりつけ医となっている。受診時は、家族や職員が同行している。日ごろの状態を文書化し、受診時に医療機関へ提供している。必要があれば、かかりつけ医に紹介状を書いてもらっている。運営者がかかりつけ医である。利用者に関しては、2週間に一回の往診がある。かかりつけ医、協力医療機関との連絡は密にし、緊急時に対応できる様にしている。受診し、変更があった場合は、家族へ報告している。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。法人の医師の往診もある。家族が受診同行の際はホームへの報告もあり、ホームとかかりつけ医との関係を築いている。また、職員が受診に同行した際は家族へは随時報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営者が医師であり、かかりつけ医の中で、各フロアの担当看護師が決まっている。看護職員出勤時は相談し、不在時は、医師へ直接相談している。主治医へ直接相談する事が主である。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院初日に、施設での状態を病院に情報提供し、職員が見舞いに行き励ましている。病院関係者から話を聞き状態確認している。家族とも情報交換し、多くの職員が見舞うように心がけている。入院者は、ほとんど戻れないのが現状である。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>随時、本人や家族の意思確認をしながら取り組んでいる。家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や職員が連絡をとり、状態変化があった時は、その都度医師に連絡し指示を仰ぐ。夜間、早朝でもかかりつけ医が対応可能。かかりつけ医の不在時は協力医療機関へかかりつけ医より連絡を行い、迅速に対応している。居室移動し、スタッフ室、ホールに近い居室でスタッフ利用者の往来が多い場所で変化に気づきやすい場所の確保を行っている。状態の変化に伴い、主治医の判断により、ホームでの生活が困難となった場合は、相談しながら、入院及び、相応の機関への対応としている。家族や本人の要望を出来る限り取り入れ、かかりつけ医と状況報告を密にとり、サービスを提供している。</p>	<p>個々の状況、状態によってケースが違いため、状態の変化に伴いその都度医師が家族と話し合い、方針を共有できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網や緊急時のマニュアルを作成し、目に付く場所におき、いつでも利用できるようにしている。消防署の協力を得て、AED、救急法、心肺蘇生法の訓練を実施し、指導を受けた事を勉強会で再確認している。事故発生時の対応を理解し実践できるよう月一回の勉強会を実施している。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会防災組織図がある。市の防災無線の設置あり。火災報知機があり、自治会長へも災害連絡が行くようになっている。運営推進会議で、市職員、自治会長、家族と、災害について話題にしている。消防署の協力を得て、初期消火、非難、通報、誘導訓練を実践して、マニュアルもある。火災、地震などを想定し、非難、災害誘導の訓練をして、指導を受けている。自治会の消防団員の協力体制がある。	消防署立ち会いのもとに年2回避難訓練を行っている。また、自主訓練として利用者を交えての消火訓練や、地震・水害を想定して実際に夜間に行うなど現実的な訓練も行っている。消防訓練には地域の方々の参加もあり、協力体制ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	厳しい時代を生き抜き、今、便利な世の中になったのも、利用者のおかげと、尊敬の念を持って声をかけ、対応している。排尿排便の失禁時、さりげなく声かけし、言葉を選び対応するよう心がけている。排便の有無など、他の利用者のいる前で大きな声で尋ねない等、プライバシー保護の徹底や個人情報漏洩防止の責務は徹底している。利用者一人ひとりに合わせた声かけに努めている。	利用者を人生の先輩として敬う気持ちで「ありがとう」、「ごめんね」のことばが素直に言えるような接し方を日常的に配慮している。職員のことば使いが穏やかで、ホーム全体がやさしさに包まれているような雰囲気である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日何をしたいか、どの服を着たいか、一緒に選ぶ。バイタル異常のない人に対し、外出嫌いの方には行きたくなるような声かけを行っている。出来る限り時間をかけ意思表示ができるよう努めている。個々に合わせた説明を行い（選択肢の提案などをし）、自己決定できるよう努力している。誕生日には好みの食べ物を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時のお茶時に、一人ひとりに今日は何をしたいか聞き、できることはすぐに余暇活動で実施する。余暇活動への参加は自由である。個人の体調に配慮しながら、眠いときは居室で横になって頂き、室温などの調整を行っている。基本的な一日の流れはあるが一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時、入浴後には櫛を手渡しといて頂く。洋服は一緒に選んだり、洗面所の前で整容している。理美容は家族と馴染みのところへ行く人もいる。必要に応じて、出張美容の利用を行っている。自己決定しにくい方には声かけしながら一緒に決めている。常に清潔な衣類を心がけ汚れたら更衣の支援をしている。一部ではあるが、本人、家族の希望に応じ、好みの洋服をきたり、化粧が自由できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、赤飯か散らし寿司、肉か魚のどちらか選んでいただいて、メニューに取り入れている。旬の野菜や魚を献立に取り入れている。たまねぎの皮むき、もやしの根とり、ピーマンの種とり等、盛り付け、食器洗い等、体調を伺いつつ職員と一緒にやっている。利用者と共に植えた、ピーマン、ナス、トマト等を収穫し食材として使っている。職員、利用者、同じテーブルにて同じものを一緒に食べている。個々のレベルにあわせてできる事を一緒に行い、食事が楽しめるよう支援している。朝のお茶の時間に本日の献立を話している。片付け、食器洗いなどに参加できない方にはテーブル拭きをお願いしている。	家庭菜園でできた野菜の収穫を楽しんだり、ちまき、かからん団子、よもぎもち、そば作りなど伝統的なものを利用者に教わりながら作っている。また、つわや竹の子の皮むき、盛り付けや片づけ、食器洗いなど個々の力を活かした支援を行っている。職員、利用者は会話を弾ませながら食事を楽しんでいる。季節に合わせ手作り弁当持参で遠足に出かけたり、外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に、毎食事摂取量、水分摂取量は把握し、記録している。水分摂取量の少ない人には、好みの飲み物を家族と連絡をとりながら、提供している。食事量を、能力的に加減できない人は職員で調整している。旬の野菜を献立に取り入れている。野菜、肉、魚、果物等、献立表に表し、同じものが片寄らないよう工夫している。柔らかめに調理し、提供している。個人に合わせて刻みの提供もある。朝食前、毎食時、10時、15時、入浴前後、就寝前、外出後に水分補給を実施している。自力で摂取できない人には介助している。水分は冷たいものや温かいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、はみがきと、口ゆすぎの声かけし行っている。能力に応じ、歯ブラシを手渡し、コップも手渡す。介助が必要な方、理解できない人には声かけし、誘導し、できない部分や総仕上げは職員で行っている。週に二回ポリドントを使用している。夜間は義歯の保管をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、水分量、食事量にも気を配り、排泄チェック表に、排尿、排便の有無など、記録し、活用している。排泄チェック表を活用し、尿意のない利用者にも時間を見ながら誘導し、排泄リズムができるよう支援している。排泄チェック表に記載漏れのないよう努めている。ズボンの上げ下げ拭き取りなど、声かけを行い、できない部分は介助している。	可能な限りトイレでの排せつを支援しており、ポータブルトイレを使用している利用者はいない。排せつチェック表の活用で、排せつの自立に向けた支援を行っている。	

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、ヨーグルトには果物を入れるなど工夫し、自然排便ができるよう取り組んでいる。体操や、運動は毎日している。水分摂取に努めている。(起床時、毎食事時、10時、15時、入浴前後、20時頃、本人希望時)排泄チェック表にて便秘対策は個々に応じて行っている。食材の工夫や食事は一人ひとりにあった消化しやすい大きさにして、提供している。腹部運動を継続している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴は実施している。汗をかいた時、失禁した時は、時間に関係なく、その都度対応している。入る順番も片寄らないようにしている。最低一日おきに入浴して頂くように配慮している。入浴拒否や入浴したことを忘れてしまう利用者に対し、様々な工夫をしながら対応している。一人ずつの入浴を実施している。必ず職員が付き添っている。	基本的には一日おきの入浴であるが、個々の希望や身体状況に応じた支援を行っている。夏場は畑仕事や外出のあとなどシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、起床は規則正しいリズムの中で自由である。本人の希望時、昼食後、入浴後、バイタル測定後はホーム内で自由に過ごしていただいている。室内温度は調整している。天気の良い日は寝具干し、汚染時、週一回のシーツ交換。二時間おきに訪室し、急変時の、早期の発見に努めている。体調や表情に応じて休憩の支援をしている。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書は個人ファイルに綴じ、又変更があった場合はその都度連絡し、記録している。二週間に一回の処方薬は夜勤者が日付を記入しており、薬の説明書は、個人ファイルに綴じている。服薬時は日付、名前をきちんと読み上げ、確認し本人に手渡し飲み込むまで確認している。利用者に応じ、口まで与薬介助し、誤嚥などがないよう配慮している。飲むことを拒否した場合は時間を置いて与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶碗洗いは、体調を考慮しながら、その人にあった量を職員と一緒にして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。苗物の植え付け、収穫、草取りの実施。散歩や食材の買い物などの場を設けている。個別の能力に応じた支援を行っている。 (掃除、洗濯干し、しわ伸ばし、盛り付け、テーブル拭き、食事の挨拶など) 季節に応じた献立を作っている。季節の行事を取り入れている。縫い物や、歌、大正琴、折り紙、踊りなど、活動できるよう努めている。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や季節、本人の体調にあわせて、交代で外出できるように支援している。一人ひとりのその日の希望に沿っての外出は職員体制により限られるが、買い物や用事を兼ねたドライブを行っている。交代で散歩や買い物に行っている。地域行事へ可能な限り参加している。家族の協力のもと、外出、外泊、墓参りなど行っている。	日常的には散歩、ドライブを兼ねて近くの大型スーパーで買い物をしたりして、戸外に出かけられるように支援している。玄関先にイスを並べて日光浴をすることもある。また、温泉まつり、コスモスやほていあおいの見学、遠足や道の駅、漁協に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て手持ちのお金がないと不安がる人は小額ではあるが、もたせている。使おうとせず、忘れていたことが殆どである。買い物時、預かり金の中から必要に応じた額をレジにて手渡し本人から支払いが出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯を持っている方は、自ら好きな時に電話をしている。充電は職員で行っている。利用者より家族への電話の希望があれば対応している。葉書、手紙は届くが、返事は書いていない。家族から電話があった時など、話ができるよう支援している。		

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、換気や掃除を行い清潔にしている。季節感のある花や掲示物を飾り、利用者、面会者が楽しめるようにしている。エアコンなどを使用し、適温になるよう調整している。温度計を設置している。陽射しの調整をカーテンで行っている。童謡、民謡、流行歌を流し、料理などで、五感や季節感を意識的にとり入れるよう工夫している。季節のおやつ（よもぎ餅、いこ餅、カカラン団子、ちまきなど）、漬物（梅干、高菜の漬物、にがごりの漬物）を利用者と共に作っている。行事にあわせた飾りの工夫をしている。ゆったりとくつろぎたい時にはソファ、畳の利用がある。	共用空間は明るく、開放的で風通しも良い。和室もあり、こたつが置いてある。利用者はソファでくつろぎながらテレビを見たり、和室に寝転がって休憩したりと思いつくつろいでいる。窓の開閉でこまめに空気の入れ替えをしている。冬場の乾燥対策としてぬれタオルをかけるなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間で居室への行き来が自由にできる。ソファや畳があり、自由に利用できる。各フロア間の行き来も自由であり（職員同行）、お茶のみも自由である。気の合った利用者同士、居室を往来し談笑している。一人になりたい時には、自由に居室に行くことができる。個人で、読書やテレビが見られるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具、寝具、衣類、椅子ソファを用意し、本人、家族もくつろいでいる。配置にも工夫している。テーブル、ご飯茶碗湯呑み、箸を使用している。できるだけ、自宅に居るときと同じように過せるよう工夫している。家族の写真などを持ってきている。	タンス、鏡台、家族の写真など好みのものが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫している。基本はベッドであるが個々の生活習慣、身体状況に応じて畳を敷き、布団での対応もしている。	

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレ、浴室、ホールに手すりの設置。浴槽内には滑り止めマットを使用している。必ず、介助者一人、利用者一人の脱着、入浴利用である。居室、トイレ、ホールに段差はない。物干し、洗面台、便座も高さを低く設けている。脱衣場から浴室へは段差があり、一般家庭と同じような作りで、自立に向けた生活が送れるよう工夫している。洗面所も広い作りになっている。本人の居室入り口に名前、造花、ぬいぐるみを飾ったり、目印になる物を置いている。利用者の表情、言動行動から本人がどうしたいかを感じ取り、さりげなく支援している。失敗を責めないようにしている。残された能力を活かし、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、しわ伸ばし等を行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム 虹の杜 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない